

宮私幼PTAだより

第91号

行 者 会
発 行 連 合 会
宮 私 幼 P T A だ よ り
(会 長 編 集 報 告 員 会)
広 報 委 員 会
事 務 局
仙 台 市 青 葉 区 国 分 町 三 丁 目 6-12
佐 正 第 二 ビ ル 6 F
電 話 (022)263-7040 番



想いを一つに、飛躍の一年へ！

宮城県私立幼稚園PTA連合会

会 長 佐々木 幸士

春は別れと出会いの季節、年長児をお持ちの親御様は卒園する子供の成長を喜びながらも少し寂しい思いもあり、そして、これから小学校に入学する期待と不安の気持ちが入り交錯しながら、新しい季節を迎えることと思います。また、年中・年少児の親御さまは、お子様の言葉や行動に表れる毎日の変化に、目覚ましい日々の成長を実感しながら喜びを感じていることと思います。

子供の成長と共に、親も子育てを通じて、社会的、人間的にも成長するものです。今、この時が、親にも子にも、人生のかけがえのない時間となりますので、仕事と家庭の両立で忙しい日々をお過ごしのかと思われませんが、子供と触れ合う時間をどうぞ大切にしてくださいと思います。

さて、政府は先の国政選挙にて公約にもしております教育無償化への各政策を推進させており、昨年十二月、幼児教育無償化については平成三十一年四月に一部前倒しで実施するものとし、同年十

月に予定の消費税増税分を財源に、平成三十二年四月から三歳から五歳児に限り、幼稚園と認定こども園の費用を親の所得を問わず、無償化（上限月額二万五千七百円）することを閣議決定しております。また、本年一月にPTA役員皆さまと幼稚園連合会が共になり、宮城県への陳情として、私立幼稚園に対する県補助金増額と教職員処遇改善を含めた人材確保対策について、村井知事に直接お会いして、要望して参りました。

今後とも国の動向を注視しながら、県や市町村と連携し、幼児教育振興に向けた取り組みと保護者負担軽減のために、皆さまと共に活動をして参りますので、ご指導ご鞭撻の程、心よりお願い申し上げます。

今年度は、幼児教育の現場が変化していく大変重要な時期となりますが、皆さまと想いを一つに、未来を担う大切な社会の宝である子供達に深い愛情が注がれる益々充実した活動の一年となりますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



第四十二回親善バレーボール大会報告

ボールとともに飛び交う沢山の声

お人形社幼稚園（P）

体育部副部長 山下 明 宏

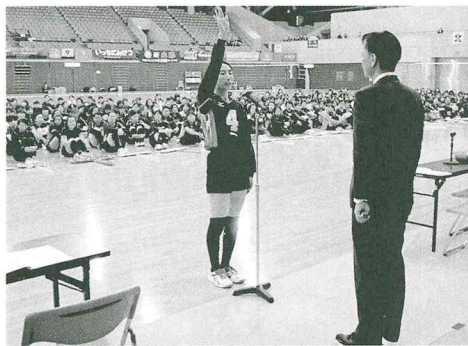
十月十七日（火）宮城県総合運動場セキスイハイムスーパアリーナにて宮私幼PTA連合会活動の第四十二回親善バレーボール大会が行われました。出場チームは北は気仙沼、南は山元町から総勢出場58チーム。一年間練習を重ねこの大会に合わせて調整してきた闘志溢れるお母さん達が集まりました。

から分析できるアリーナのすぐ上。いつもここだからという落ち着けるいつもの場所。各チームその日の戦術に合わせて、思い思いのチーム控え場所を取られておりました。

大会当日の早朝、私を含め大会役員がこの会場へ集合し会場門へ移動すると門の外は長蛇の列。ここからもうチーム控え場所の場所取合戦が始まっています。これがあるほど、早朝より並ぶ理由がありました。陽のあたる温かいガラス窓の側。各チームの戦いを上

開会式では宮私幼PTA連合会の佐々木幸士会長の開会宣言、このバレーボール大会では欠かせない新沼審判長からのルール説明、そして向山こども園のキャプテンによる選手宣誓を終え士気が高まったところでいよいよ試合開始。この大会はAコートからFコート合計6コートに分かれ六つの優勝チームが生まれます。

試合内容は一方的な強さで連勝したり、前半は圧倒的な強さだったチームが後半になるにつれ、もう片方のチームに逆転されたり、手に汗握るシーソーゲームだったり、試合はどれも子を持つお母さんとは思えないほど迫力のある試合ばかりでした。お母さん達が強い声を出し合い連携をとり、優しい声で味方のかばい、大きな声で勝利の喜びを分かち合っていたのがとても印象的でした。とあるチームは園児たちの可愛声による応援もありチームへこの上ない力になっっているように感じました。強いチームほどたくさんの声が上が



つていたと思います。

日々の子育てや、仕事の合間の中での練習はとても限られた時間だったとは思いますが、試合中はそのチームのお母さんも活き活きとされており、子供を通して出会われたお母さんたちの良き交流の機会であると共に、充実した生活を送る上でもこの大会には大きな意味があるのだと思います。

最後になりましたが今大会へ御協力頂きました関係者の方々におかれましては、大会への準備や当日の運営に多大なるご協力を頂き誠にありがとうございました。次の大会の成功を祈りまして結びとさせていただきます。

第四十二回宮私幼PTA親善バレーボール大会入賞チーム

| コート | 優勝 | 準優勝 |
|-----|---------|------|
| A | もみじが丘 | 東北学院 |
| B | 岩沼南こぼと | やまびこ |
| C | 南光シオン | さいわい |
| D | 多賀城高崎 | ドリーム |
| E | 福 聚 | 愛 子 |
| F | 鶴ヶ谷 袋 原 | |

全日私幼PTA

全国大会に参加して



お人形社幼稚園(下)

副会長 横澤 行夫

全日本私立幼稚園PTA連合会は、去る九月二十五日、午後一時から東京・ホテルニューオータニにおいて、「次代(あす)を担う子どものために」幼児教育の振興に向けて」をスローガンに第三十二回PTA全国大会を開催しました。

会場には、全国各地の私立幼稚園・認定こども園から一二〇〇人以上の保護者代表が集まり、また約一〇〇名以上の国会議員の方々

や、文部科学省の代表が来賓として加わるなど、熱気あふれる大会となりました。宮私幼PTAからは横澤副会長、佐々木拓真広報部長、菅原彰常任委員の三名が参加、また、宮私幼連合会からは村山理事長、鎌田副理事長、目黒理事、大風事務局員の四名、計七名が参加しました。

大会第一部の式典では、開会の挨拶のあと安部晋三内閣総理大臣が祝辞の中で、「今後、幼児教育の無償化を思い切って加速させるなど、若い世代への支援に取り組みます」と述べ、注目を集めました。当日、衆議院解散の記者会見を控えていたため、報道陣も多数押しかけ、SPの警戒も厳重でした。

次いで主催者を代表して、河村建夫・全日私幼PTA連合会長、森喜朗・最高顧問、香川敬・全日私幼連合会長が挨拶し、また林芳正・文部科学大臣、中曽根弘文・幼児教育議員連盟会長、馳浩・同連盟事務局長が祝辞を述べました。次に家庭教育の向上と幼児教育



宮城県知事への陳情

六郷幼稚園(P)

副会長 渡辺 勝 幸

平成三十年一月十一日宮城県庁を訪問、村井嘉浩宮城県知事に対し、宮私幼の常任理事と共同で要望活動を実施しました。当日の参加者は宮私幼PTAから、佐々木幸士会長・渡辺副会長・深谷晃祐副会長・横澤行夫副会長・畑山志穂副会長及び岩山伸次・伊藤尚美・小川せつ子・佐々木拓真の四名の常任委員、菊池友紀・中川奈緒美の二名の監事、それに園児代表として畑山かなえちゃん(岩沼南こぼと幼稚園年長児)でした。宮私幼連合会の村山理事長ほか六名を含め合計十八名が出席し、要望書を提出しました。



要望書の内容は、「平成三十年度私立幼稚園に対する県補助金増額と教職員の人材確保のための施策に対する要望」でした。村井知事からは、幼児教育の重要性について理解しており、県財政を見ながら考えていきたいとのこと、また教職員人材確保については国の対応も見極めながら補正予算での対応が可能かどうか検討したいとの答えでした。参加者は知事と一緒に記念撮影をしたあと、県議会の中島源陽議長を訪問し、同様の要望書を提出しました。中島議長からは、自身が宮私幼PTA役員経験者でもあり、役員の三人の県議会議員とともに県議会としても当局に働きかけていきたいとの答えをいただきました。

お知らせ

平成三十年度行事予定

- 平成三〇年度宮私幼PTA総会
期日 平成三十年六月八日(金)
会場 東京エレクトロンホール宮城 六階会議室
- 教育振興大会、研修大会
期日 平成三十年六月二十六日(火)
会場 東京エレクトロンホール宮城 大ホール
- 第四十三回親善バレーボール大会
期日 平成三十年十月二十三(火)
会場 利府町グラウンド21
セキスイハイムスーパーアリーナ

地区活動報告

平成二十九年登米地区研修大会

「親子で運動遊び」

登米幼稚園(P)

曾根智美



平成二十九年十月十四日、登米公民館大集會室を会場に登米地区私立幼稚園PTA連合会親睦・研修会が開催されました。

「親子で運動遊び」と題し、「とよまスポーツクラブ蔵っこ」のクラブマネージャーである高橋康太先生を講師にお迎えし、総勢七十名ほどの参加で行われました。親子対抗サッカーや親子ペアボール遊び、鬼ごっこ遊びを通し親子の絆がより深まるとともに我が子が同年代の子と比べてどの程度の成長過程にあるのかを知る機会にもなりました。また親同士の繋



がりも新たに構築することができたようです。

実技後に行われた高橋康太先生の講話の中では、六歳以下の子供に重要なのは「遊び」であるということをお話いただきました。

まず、幼児は遊びの中で好奇心が育まれ、自分自身が動きながら触れながら考えることで興味が湧いてくるということ。また日々急速に成長する幼児期は、私たち保護者の関わりが、その後の人間としての生き方を大きく左右する重要な時期であること。これらのことを認識しつつ、我が子の成長に



ついて常に関心を払うことが必要であることを学びました。

現代社会は私たち保護者が子供の頃と比べると、体を動かしながら、兄弟姉妹や友達と外で遊ぶことが明らかに減っていると感じます。

その理由のひとつには、少子化により兄弟姉妹の数が減り、近隣にも子供がいる世帯が無いなど、社会的な影響が大きいものとも思えますし、ソーシャルネットワークの進化や携帯電話、テレビゲームの普及により、室内遊びをすることが多くなり、外で遊ぶことが難しく環境になりました。

今回の研修では、家庭でのほんの少しの時間をみつけて親子でできる運動遊びを体験し、子どもの運動不足についての保護者の不安を少しでも取り除ききっかけになったのではないかと思います。

最後に、本研修会開催にあたり、御尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。



会員のひろば

どうせやるなら

小鳩幼稚園(P)

大場 政之輔



自分が父親になって7年。子供を育てるということには子供自身に経験させないとわからないこともあるので本場に難しい。でも難しいから、経験し、学ぶことで親も成長し、子育てが楽しくなる。

幼稚園の活動は子供達にとって最初で親以外から様々な事を学ぶ子供達を通して同世代のパパさん、ママさん達との出会いの場です。

だからこそ幼稚園活動は先生方、子供達、父兄が協力し、楽しく活動する方が良く私は思っています。どうせやるなら楽しくやった方が良く。子育ても一緒に楽しめると最近思うようになりました。

そうやって活動するなかで子供達も、父兄もより良い方向に成長でき、子供も親も一緒に成長することが一番良い方向につながるのではと最近思います。短い幼稚園生活を子供達と一緒に精一杯楽しみたいと思います。

子どもの成長を通して

上田幼稚園(P)

櫻井 静香



息子が年長になった今年度、役員の活動することになり様々な

経験をさせて頂きました。下の子を連れての役員会や研修部の係など最初は務まるか不安でしたが、他の園のお母さんや同じ園と一緒に活動した会長さんに助けて頂きながら、無事役員の活動を終えようとしています。

役員の集まりで園に向く機会が増えると、ニコニコで一生懸命手を振る息子を見るのが楽しみのひとつでもありました。思えばまだ年少の一学期の頃、何か失敗して落ち込んでいた私を息子が励ましてくれ、それまで私が掛けたことのない言葉だったので驚いたことがあります。おそらく先生がお友達が使っていたのを真似したのだと思いますが、幼稚園に通うことで息子の世界が広がっていくのを初めて実感したことを憶えています。様々な行事を経験し遅くなっても子供も達に、沢山パワーを貰いました。母として明るく太陽の様にいたい理想はあるものの、忙しく余裕がないと自分でもわかるほど声のトーンが下がり、最近では察した息子に「今、ワルワルお母さんだよ」と言われてしまっているなと思います。貴重な幼児期、親子の関わりを精一杯楽しんで奮闘したいです。

子供と共に変わりたい

塩釜ひまわり幼稚園 (P)

安田晴奈



娘の入園と同時に父母の会役員になると決めて三年。幼稚園マ

マとして何もわからず、役員になり活動の幅を広げ内気な性格を改善しようと考えてのことでした。一年目は言われたとおり動くだけで精一杯でしたが、三役の方々の適確で素晴らしい活動に次年度はもう少し頑張ろうと決意しました。二年目、尊敬する会長さんが仕事を始めたのをきっかけに会長職を私にという話がありました。人見知りもあり無理、と思いましたが家族は喜んでくれ、同じく人見知りの娘の「ママが頑張るなら私も頑張る」の言葉に背中を押され会長になることを決めました。塩釜地区と宮私幼PTAの副会長も務めることになり、研修大会の大会宣言は緊張しましたがそれを乗り越え自信がつき他園のママ友も増えました。色々な場所で活躍する機会を頂き素敵な一年になりました。三年目の今も楽しく会長をさせて頂いています。私も娘も変わりました。人見知りを克服したくさんの友達ができました。娘はお遊戯会で堂々と台詞を言っており、とても励まされました。三年間家族をはじめ、関わるたくさんの方々を支えて頂いて幸せだと実感しています。役員・会長になって最高の日々をすごさせて頂いたことに感謝しています。

子供の成長を感じて

長浜幼稚園 (P)

阿部剛



二人の男の子供がいます。上の子は中学生、下の子は年長と、

年が離れており、喧嘩にはなりません。よく下の子供が上の子供をいじっているのを見えています。度が過ぎることが多く、私はいつも怒ってばかりいるせいか、下の子供は「パパの顔いつも怖い」とよく言われます。幼稚園の行事等で下の子供を見ると、年々成長しているのを感じました。幼稚園での集団行動、自分より年下の子供の面倒を見るなど子供は子供なりに一生懸命頑張っている姿を見て「できるんじゃないか」と思いました。家ではまるつきり逆の姿をいつも見えています。しかし、そこから感じること

出会いに感謝

愛耕幼稚園 (P)

佐々木 有佳里



私には二人の子ど

がおり、三月に親子で卒園となりました。最後の一年、お世話になった園への恩返しのためにも会長を引き受けました。しかし、会長のイメージとはかけ離れている私に「本当に務まるのだろうか？」と不安が大きく、自信もありませんでした。そんな時、「あなたなら大丈夫」「あなたがいるから私も役員を引き受けたいから私も役員を支えてくれました。そのおかげで「やるしかない。」と前向きに考えることができました。一回目の役員会は緊張しましたが、会を重ねることに役員同士の仲も深まったように感じました。園行事や連合会の親子行事など、やることはたくさん。正直なことを言うは大変でしたが、行事をやり終えた後の達成感、何とも言えない喜びでした。この一年頑張つてこれたのは、大変さと喜びを共有していた役員仲間たち。協力してくれた友だちのみんな。応援してくれた家族の支えがあったからこそです。子ども達と共に五年間通った幼稚園。親子で素敵な先生方と友だちに恵まれ、すばらしい五年間でした。この出会いに感謝し、今後大切にしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

出会いは宝物

中田幼稚園 (P)

遠藤祥子



年長の息子が「おゆうぎ会」で心を込めて歌った「友達はいいもんだ」という曲にこんな歌詞があります。

友達はいいもんだ
目と目で物言えるんだ
困った時は力を貸そう
不安だらけでの会長就任でしたが、今となっては、この歌のように巡り合った沢山の方々にお力を貸して頂き、支えて頂きました。今年度は、他にも仙私幼や宮私幼の役員となり、園以外の役員会や研修大会等、他の幼稚園の方々顔を合わせ、新しいことを学び、だんだんと話すことが増え、集まりが楽しみに変わっていました。園行事のお手伝いでも普段は話す機会がない保護者の方々や接することが多くなり、一つ一つの行事の達成感を共有することができました。また、息子だけでなく、他の園児達の普段の様子、成長も近くで見守ることができ、「負けていけないぞ」と勇氣と力を沢山分けてもらいました。会長になっていなければなかった経験は不思議なほどありました。沢山の方々との出会いが、子供だけでなく私も成長するきっかけとなりました。役員さんはもちろん、保護者の方々、先生方のお力添えがあったことと感謝の気持ちでいっぱいです。沢山の方々との出会いが私にとっての宝物になりました。

平成二十九年 編集委員

- 副会長 渡辺 勝幸(六郷 P)
- 副会長 横澤 行夫(お人形社 T)
- 広報部長 佐々木拓真(エールワレウ)
- 広報副部長 友川 栄(登米 T)
- 広報委員 江湖 貴恵(塩釜ひまわり T)
- 広報委員 我妻 智香(たんぼぼ T)
- 広報委員 齋藤 貴裕(たんぼぼ P)
- 広報委員 曾根 智美(登米 P)
- 広報委員 小山 郁子(愛耕 T)
- 広報委員 佐々木有佳里(愛耕 P)
- 広報委員 後藤 竜記(長浜 T)

あとがき

日一日と陽射しが強まり、春の訪れを感じる季節となりました。この冬は、記録的な寒さ、大雪、インフルエンザの大流行と、大変厳しい冬となりました。大変そんな中でも、子供達は、進学、進級への期待に小さな胸をふくらませながら、元気に日々を過ごしていることと思います。おかげさまで「宮私幼PTAだより九十一号」をお届けすることができました。お忙しい中、ご寄稿いただいた皆様、心より感謝申し上げます。最後に、会員の皆様さらなるご発展と、お子様の健やかな成長を願いあともさせていただきます。一年間、ご協力ありがとうございました。 (広報部長)